

早良南部地域における交流人口の拡大による地域活性化事業について

早良南部地域活性化事業実行委員会

1. 共働のきっかけ・役割分担

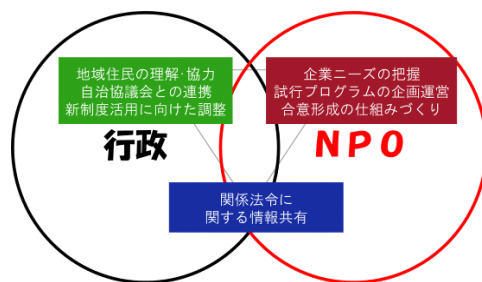
早良南部3校区（脇山・内野・曲渕）は、背振山系に囲まれた自然や清流を活かした豊かな農地が広がり、また、特徴的な歴史・文化を有する地域である。そして、それらを活かした多彩なイベントや特産品が魅力となっており、都市部へのアクセスも良好な場所となっている。これまで、早良区と各校区によって構成されるまちづくり組織「早良みなみ塾」の取組みにより、地域資源を活かすための活動が推進されてきた。一方で、少子高齢化や人口減少が進み、今後の「交流人口の増加」、「自然・農村の魅力の活用」、「地域・事業者との共働の体制・仕組みづくり」が重要な課題となっている。



さわらの秋

そこで本事業では、持続可能な早良南部地域の新しいまちづくりにむけた共働の体制づくりや持続性・実効性の高い事業構築を目標とし、魅力ある地域資源や既存ストックの活用策を、地域内外の様々な市民や団体・事業者等と共に検討することとした。活用策の検討は、市や地域の取組と連動し、市街化調整区域の規制緩和に関する新制度の運用を見据えながら、進めていくこととする。

また、市街化調整区域の規制緩和策を活用した、地域と事業者との連携による新しい取組の試行に向けては、プログラムの企画や実施、体制づくりに関わる主体間の調整をはじめ、周知・啓発や行政手続きなど、幅広い対応が必要となる。そこで、共働事業として主にNPOとしては、地域・事業者連携によるイベント実施や合意形成に関わるノウハウを、市としては地域等への周知や庁内調整等のノウハウを共働し、試行しながら成果をとりまとめることで、福岡市の新制度としてより効果的に地域内外への意識付けを行うことができる。



<NPO が果たそうとする役割>

- ・地域及び都市側（各種団体や企業等）のニーズを踏まえた、地域の魅力資源や既存ストックの活用拡大に向けた新しいまちづくりの取組の継続的な検討
- ・校区外事業者や住民とのマッチングによる試行プログラムの継続実施
- ・市街化調整区域の新制度を活用した、校区外事業者等の受け入れのための地域の合意形成の仕組みづくりや体制づくり

<福岡市が果たそうとする役割>

- ・地域（校区住民、自治協議会、公民館、町内会）との連絡・調整
- ・試行プログラムの実施や新制度活用に向けた庁内調整及び行政手続き
- ・市街化調整区域の開発規制緩和策等の新制度に関する周知啓発

2. 事業の目的・目標

平事業初年度である平成 30 年度は、地域ワークショップ・意見交換及びその結果を踏まえた事業者ヒアリング等により、新たな交流促進を実現するためのプログラムとしての「地域づくりプラン」について取りまとめを行い、市街化調整区域の土地利用規制やその規制緩和を踏まえつつ、地域の様々な資源を活用し、地域の住民や校区内事業者、都市部の事業者が連携し、地域活性化を目指すことの可能性について共有した。



地域ワークショップ

2 年目となる令和元年度においては、とりまとめた「地域づくりプラン」の試行・検証を行った。その試行するプログラム（以下、試行プログラム）の実施に向けては、平成 30 年度にワークショップやヒアリングで協議した地域住民・団体や事業者を中心に継続的な対話を行いながら、企画内容や関係者の役割分担を設定した。また、その企画内容や役割分担は、将来的に事業主体となる組織や体制の構築、及び持続的な事業化への展開を見据えたものとして検討した。さらに、試行プログラムの成果については、都市と農村の交流の事例集として取りまとめ、新たな活用を推進するための周知・広報ツールとして作成した。



事業者ヒアリング

令和 2 年度としては、共働事業終了後は、検討・試行された、地域住民や新しい団体・企業等が連携する取組を、地域が主体となって実施できるための体制づくりを目標として継続的な取組と、検討・協議を行う。将来的には、新規事業を始め、市街化調整区域の規制緩和を活用した移住・定住等に対する地域内外のニーズをマッチングさせる中間支援組織としての体制等を目指していく。

■令和 2 年度の事業目標

○都市部事業者や市民・地域との持続的な事業の構築

本事業において実施、検討した試行プログラムをについて、継続的な取組みが進むよう、プログラムにおいて、課題の整理や今後の方針の整理を行う。

○継続的な地域や事業者との対話を通じた協議会の体制検討

地域や事業者との連携が継続していくための話し合いの場の設立に向けた検討や意見交換を行い、実現のための必要な取組みを整理する。

○都市部への周知・啓発の取組みの継続及び拡大

今後の交流人口拡大に向けた周知・啓発ツールを作成し、本事業等に係る広報活動により継続的な都市部への PR を検討、取り組むものとする。

成果指標として昨年度設定した①ワークショップへの参加者数、②アンケートを実施した事業者数、③ヒアリングを実施した事業者数、④試行プログラムの実施数に加えて、今年度は⑤地域イベントや事業者と連携し、取組を周知した回数、⑥新たに連携した事業者数を追加した。

<成果指標>

成果指標	目標値		
	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
①ワークショップへの参加者数	120	120	120
②アンケートを実施した事業者数	30	40	50
③ヒアリングを実施した事業者数	5	10	15
④試行プログラムの実施数 ※	0	2	6
⑤地域イベントや事業者と連携し、取組を周知した回数	-	3	5
⑥新たに連携した事業者数	-	4	8

※平成 30 年度事業で把握した地域ニーズを踏まえ、空き家や遊休地といった既存ストックの活用のみならず、交流人口の拡大の視点で広く実施することとした

3. 事業内容

1. 試行プログラムの継続・体制の強化

平成 30 年度、令和元年度の実績を踏まえ、検討体制を運営主体に巻き込みながら、取組の試行を継続実施する。現在新型コロナウイルス感染拡大防止への配慮の中で、事業者との調整の中、具体的に取り組みに向けた協議を進めている。

(1) 試行プログラムの運用による取組・体制づくり

●「農・食」をテーマとしたプログラム

①近隣大型商業施設における農作物や加工品の PR（調整中）

事業者との協議を行っている中で、コロナへの配慮で 12 月まではイベントの開催が難しいという状況を受け、地元農家と連携した企画を引き続き行い、1 月以降などの検討を行う。



●「アウトドア・健康」をテーマとしたプログラム

②アウトドアブランド・公益財団法人と連携したソロキャンプイベント（実施日程確定済み）

全国に店舗を展開するアウトドアブランドと全世界で活動する公益財団法人（野外活動を通じた青少年育成活動を実施）と連携した、脇山野営場（公益財団法人所有）でのコロナへ配慮したソロキャンプイベントを実施予定。

4月～8月：企画調整 9月：募集案内

10月：事務局キャンプミーティング

11月7～8日開催（15組募集）



③登山ショップと連携した初心者向け登山プログラム（実施日程確定済み）

福岡市の老舗登山ショップの主催による、初心者向けの背振山系登山プログラム。

6月～8月：企画調整 9月：募集案内

10月25日、11月1日 計2回開催（各回15人）



④自転車メーカーと連携した早良南部地域サイクリングコースづくり（実施日程確定済み）

全国に店舗を展開する自転車メーカーと連携し、早良区における周遊コースや南部地域における山岳コースなどの自転車で地域を楽しむ、脇山校区の自然や食を電動付き自転車で楽しみながら巡るツアープログラム。

6月～9月：企画調整

コース調査・撮影：11月2日

コース確定および今後の周知に向けた企画



また、今後以下のプログラムの検討に向けた意見交換会を実施予定

●店舗に関する規制緩和を活用した取組を進めるプログラム：今後地域店舗との意見交換会を予定。

●住居に関する規制緩和を活用した取組を進めるプログラム：今後地域代表者との意見交換会を予定。

（２）事業者マッチングに向けた意向調査（関係者の声）

１．の試行プログラムの実施に向けて、昨年度より継続的に意見交換を行っている事業者との継続的な協議の場を持っており、今後新たな展開を検討していく。



事業者A：近隣の大型商業施設を管理運営する事業者

＜主なご意見＞

- ・現在はコロナへの対応でイベント開催が難しいが、早良南部も商圈となる当施設においては、地域貢献としての取組につながるため、継続的な対話や連携を検討していきたい。

事業者B：全国に店舗展開するアウトドアブランドショップ

＜主なご意見＞

- ・昨年度も連携ができたが、やはり福岡市内には市民のニーズに応えられるほど、キャンプ場が整備されていないため、今回の取組は将来の市民サービスとして可能性があるかと期待する。そのような取組や連携の中で、自社の商品PRやイベントが実現するとよい。

事業者C：全国に店舗展開する自転車メーカー

＜主なご意見＞

- ・脇山周辺はサイクリストにとって自然や食が豊かで、アップダウンも十分にある魅力的なエリアであり、今回はイベントが難しかったが、新しくサイクリングコースづくりに関わり、自転車の普及につながるのであればそれは企業としてもありがたい。

事業者D：背振山系等の近隣での登山イベントを実施する登山用品店

＜主なご意見＞

- ・脇山は市内でも最も魅力のある登山場所であり、継続的にイベントを行っていきたい。一方で引き続き公共交通の便の悪さは課題として残る。

事業者E：169カ国の国と地域で野外活動を通じた青少年育成活動を行う公益財団法人

＜主なご意見＞

- ・アウトドアメーカー等の事業者と連携することで、これまで接点のなかった市民に対して団体の活動を周知し、活動を広げていける可能性があると感じている。

(3) 周知・啓発の取組

①区広報誌での周知啓発

試行プログラムの広報・募集を行う媒体として、区広報誌である「さわらの秋」を活用した（1万7千部発行）。掲載紙面に、本事業の取組みであることを記載している。



11/7 (土)
11/8 (日)

ソロキャンプを楽しもう in 脇山野営場

スノーピークのスタッフや日本ボーイスカウト福岡県連盟の方と一緒に、みんなでソロキャンプについて、その魅力を語らいながら楽しめます。当日はキャンプ道具の使い方などのワークショップも予定しています。（ワークショップのプログラムは新型コロナウイルス感染拡大防止の点から変更中止することがあります。）

- 会場：日本ボーイスカウト福岡県連盟脇山野営場（脇山 1780-2）
- 時間：14時開会～翌日10時閉会（11月7日（土）～8日（日））
- 募集人数：最大15人（ソロキャンプのみの募集となります。）
- 参加費：2,500円（サイト代、運営費、保険など）
- 申込方法：以下の項目をメールで送るか、お電話で直接お申してください。
- ※申込期間：10月16日（金）まで先着順となります。

定員になり次第締め切りとさせていただきます。

【メール】 sawarananbu@step-i.co.jp

【電話】 092-271-3673（環境文化プロジェクト機構）

- 氏名（漢字・フリガナ） ●住所 ●電話番号 ●性別 ●生年月日
- 緊急連絡先番号 ●キャンプ歴（○年及び年平均○回程度でお答えください。）

※上記のイベントは、福岡市早良区と（特活）環境文化プロジェクト機構による福岡市共働事業提案制度「早良南部地域における交流人口の拡大による地域活性化事業」を通じて実施しています。



※キャンプ道具および食材はすべて参加者にご準備いただく必要があります。

※会場で提供できるものはキャンプサイト、水汲み場、トイレ、シャワーとなります。（駐車場はありますが、キャンプサイトには駐車できません。）

※薪は現地で購入いただけます。

①
10/25 (日)

矢筈谷（やはずだに）～
脊振山～椎原峠コース
（約6時間のコース）

②
11/1 (日)

花乱の滝～滝川谷～
金山～坊主ヶ滝ルート
（約5時間のコース）

あなたも山歩きで健康と感動を味わいませんか？

ネイチャースクール



紅葉が色づき始めた脊振山系をインストラクターが案内します。金山や脊振山の秋色の稜線に広がるブナ林など、美しい眺望が広がる行程で、自然の中で健康と感動を体験できます。

- 集合：早良営業所バス停前（登山口までタクシー分乗で移動）
- 集合時間：7時45分
- 募集人数：各回15人程度
- 参加費：500円（傷害保険料など）
- 申込方法：ラリーグラス大名店（中央区大名2-2-46）へ来店にてお申込みください。
- お問合せ：ラリーグラス大名店 ☎092-712-8909

※上記のイベントは、福岡市早良区と（特活）環境文化プロジェクト機構による福岡市共働事業提案制度「早良南部地域における交流人口の拡大による地域活性化事業」を通じて実施しています。



②既存イベントでのPR活動

今後、地域の既存イベントにおけるPR活動の在り方について、実行委員会や地域との話し合いを行う。

(4) 新制度ガイドラインづくり（2月～3月実施予定）

3 か年における本事業のとりまとめとして、報告書および概要版に加えて、試行プログラムの成果を基に、早良南部の地域資源を活用した交流人口の拡大に向けた取組みの事例集を作成する。その事例集を活用し、地域への周知を図るとともに、今後の運営体制づくりに向けた検討を進めていく。

(5) 目標の到達度

コロナへの配慮によりイベントなどの中止や延期、調整があった中で8月末現在としては達成度が低い状況にある。一方で、アフターコロナにおける新しいプログラム作りなどを検討しており、今後目標達成に向けた取組みを調整している。

成果指標	目標	実績 (8月末)	実績 (年度末見込)	達成度 (8月末)	達成度 (年度末見込)
ワークショップへの参加者数	120	0	60	0%	50%
アンケートを実施した事業者数	50	0	50	0%	100%
ヒアリングを実施した事業者数 (同社への複数回ヒアリングを含めた場合)	15	6 (12)	15	33%	100%
試行プログラムの実施数 ※1	6	0 ※2	6	0%	100%
既存イベントや事業者と連携し、取組みを周知した回数（取組み数）	5	2	5	66.6%	100%
新たに連携した事業者数	8	5	8	50%	100%

※1：平成30年度計画時点では、成果指標「試行プログラムの実施数（空き家）」「試行プログラムの実施数（空地・未活用農地）」としていたが、地域や事業者のニーズを踏まえ、自然や食など地域の資源を活用した、交流人口の拡大に向けた試行プログラムの実施を行っている。

(6) 担当者の声

- ・今年新型コロナウイルスにより予定どおりに活動が進まない中で、感染拡大防止としての早良南部地域活性化に向けた取組みづくりに苦労している。
- ・一方で、特に早良南部地域のような環境が、アフターコロナとしての新しいアウトドアや健康づくり、農体験などの拠点としての可能性を見出すことができ、今後より事業者や地域団体等との意見交換が重要であると考えている。
- ・後半の取組では、これまで企画してきた試行プログラムを実施しながら、次年度以降も継続できる体制づくりを目指した対話を強化していきたい。

4. 次年度への展開

本共働事業では、早良南部の活性化を目指した試行・検証や対話を継続しながら、地域の新しい受け入れ体制づくり構築の実現を目指している。ここでは、地域やNPOが校区住民と都市住民、事業者のニーズをマッチングする活動へと展開し、最終的には持続可能なものとするための協議会を立ち上げることを目指している。

共働事業終了後は、検討・試行された、地域住民や新しい団体・企業等が連携する取組を、地域が主体となって実施できるようNPOが活動支援を行うことを予定している。

将来的には、新規事業の拡大による交流の促進により、移住・定住等に対する地域内外のニーズをマッチングさせる中間支援組織としての体制を目指していきたい。

